

海とボートの雑誌  
オーシャンライフ

J l y . 2 0 1 1  
N o . 4 8 4

7

1980年12月2日第5種郵便物認可  
2011年6月5日発行・発売  
(毎月18日発行・発売)  
第41巻第7号通巻484号

【中古艇検索サイト】  
[www.ez-boat.com](http://www.ez-boat.com)  
【本誌公式サイト】  
[www.oceanlife.co.jp](http://www.oceanlife.co.jp)  
【本誌編集長ブログ】  
[www.ez-boat.com/blog/](http://www.ez-boat.com/blog/)

連絡窓口:  
カボ40エクスプレス ゼウス  
セーリング

ボートトクルーズの「楽園」で  
ゆったり過ごす

至福の休日……

漁  
ア  
内  
紅  
帆

●特集

ニュー ボートインプレッションスペシャル

NEW BOATS IMPRESSION

カボ40エクスプレス ゼウス

シーレイ305サンダンサー

シードゥ230ウェイク

●ボートショーレポート

マイアミボートショーレポート第三弾

ボートの数だけ個性がある。日本ではあまり見かけないボートを乗り尽くす!

## 今回の参加艇



ヤマハSR-23:ハ赤崎店オーナーご一行



ヤマハPC-27:中野博明オーナー&佐美さんご夫妻



トヨタボーナム428G-II:「RIMA」号オーナーご一行



ヤマハPC-41:ヤマハ藤田オフィシャル船  
by UMIO Yamada



プラチナムコット48MY:小間豊秀さんご一家

## (株)ヤマハ藤田 オークマリーナ店



今回のクルージング行の拠点となったのが(株)ヤマハ藤田 オークマリーナ店。瀬戸内海に面した場所に立地し、同地より約20分で家島諸島、約1時間で小豆島、淡路島、そして約2時間で和歌山や瀬戸大橋に行ける瀬戸内海東部のポートクルージングには好立地にあるマリーナだ。(株)ヤマハ藤田で競争展開中の「プリゾンレンタルボート＆バケーションクラブ」の拠点マリーナでもある。通常よくあるレンタルボートシステムに留まらず、本文中でもふれたとおり、様々なサポート体制が用意されている。ビギナーからベテランまで広くボートの魅力を楽しめることウケアイだ。また、ヤマハ藤田のカフェ

事業を担う「クルージングカフェ マリカ」も同店にあり、リラックスできる空間作りとこだわりの美味しい食事やスイーツなどが用意されている。女性目線で構成された店内はボートティングの前後に窓を設けた開放感のある空間として、また食事目当てで立ち寄る一般のお客さんも多いのがポイントだ。

## YAMAHA FUJITA marinas & resorts since 1950

(株)ヤマハ藤田 オークマリーナ店  
[ADD] 兵庫県たつの市御津町菟原1131-1  
[TEL] 079-322-8800  
[URL] [www.seasea.jp](http://www.seasea.jp)



上: クルージング  
カフェ マリカの店内  
にはソファスペース  
も設置。ゆっくりと  
くつろげるのが嬉しい  
スペースだ。  
下: マリカの新メニ  
ュー「マリカ特製バ  
ンケーキ」リコッタ  
チーズが利いた絶  
妙な味わいをぜひご  
堪能あれ!



## ホテル アナガ



ホテル アナガを海から望む。  
オレンジの屋根の通路などた  
ずかいで落ち着いた雰囲気を  
身からも感じさせてくれる。

まだオープンしていなかったが、  
既に完成されたガーデンプー  
ルが気持ちの良さそう。気候  
の良くなったら、遊びまた……。

今回の2デイクルーズの停泊先となった淡路島の南西部、鳴門海峡を臨む位置にあるリゾートホテル。ゆったりとした宿泊空間や、地の物を生かした和洋の食事、スパ、プール、テニス＆ゴルフなどさまざまに楽しめる。なお、同ホテルの

部屋には時計がないのもポイント。これはひとえに「日常を離れてリゾートを心ゆくまで楽しんでほしい」という「おもてなしの心」の表れ。都会の喧騒や普段の生活から離れた「極上のリゾート」がここでは満喫できるのだ。なお、ボートでの寄航もOK(要事

前予約)なので、マイボートでぜひとも立ち寄ってみてはいかがだろうか?

ホテル アナガ  
[ADD] 兵庫県南あわじ市阿部賀  
[TEL] 0799-39-1111  
[URL] [www.hotelanaga.com](http://www.hotelanaga.com)

至福の休日……

# 瀬戸内 アート 内海 紀行

ボートクルーズの「楽園」で  
ゆったり過ごす

## 瀬戸内 2デイクルーズ

ポートクルージングの「楽園」ともいえるのが瀬戸内海だ。大小さまざまな島々が織りなす美景観、海の幸や島の幸を使った美味しい食事、そして大海原をボートで巡る醍醐味……。そんな楽しみにあふれる瀬戸内海を巡るクルージングを兵庫県の(株)ヤマハ藤田が企画した。一泊二日の2デイクルーズの同行リポートをここにお届けしたい。

# Day 01

目指すは「鳴門のうず潮」



兵庫県たつの市にあるヤマハ藤田 オークマリーナに集まつた参加艇。どんなクルージングになるか、ワクワクする……。

瀬戸内  
航

「今

度、ウチのお客さんとで瀬戸内海クルージングに行くんですけど、取材に来ませんか?」

そう誘ってくれたのは、兵庫県姫路市を中心に展開する(株)ヤマハ藤田の代表、藤田忠久さんだ。同社はボート販売はもとよりレンタルボート、免許スクールなど、マリンサービス業務を広く展開している。その業務の一つにカフェ・マリンサービス事業がある。これは同社が運営するマリーナ(兵庫県たつの市にあるオークマリーナと、神戸市の須磨ヨットハーバーおよび姫路市の網干ポートパークの運営)でのマリーナサービス業務と、オークマリーナ内にある「クルージングカフェ マリカ」でのカフェ事業を合わせたもの。この2つの事業において同社では誰でも楽しめる親水環境の提供と、マリン＆ボート文化の発信を行っている。具体的にいって、ボートを楽しむ環境を整備することと、ボートを介した

遊びを広く提案していくことである。「昔はボート屋さんといえば、ボートの販売とメンテナンスなどのサービス業務だけでしたが、よかったですけど、今はそうじゃない。実際に免許を取ってボートを買ったはいいけど、すぐに一人で遊びに行ける人ってなかなか少ないです。そんな部分のサービスも含めてボートの遊び方を広く提案していきたいと思っています」と語る藤田さん。同社ではオリジナルのレンタルボートシステム「プリズ・レンタルボート&バケーションクラブ」を開設している。ボートレンタルはもちろん、同システムで優れているのはクラブメンバーに対して行われる6つのサービスメニューがある点。

## 1. コンシェルジュサービス

使用艇や行き先、食事、オプションメニューなどを自由に組み合わせたオリジナルクルージングの提案と、提携ホテルの案内

や係留先の予約、必要に応じたマリングッズのレンタルやケータリングの手配などを広く行う。

## 2. クルージングサービス

ボートビギナーに向け、プランニングはもちろん、実際のクルージングにドライバーやスタッフ同行を手配。ボートや遊び道具の手配や係留桟橋や燃料等の手配も行う。

## 3. トレーニングサービス

免許所持者に向けた操船レクチャー、離着岸練習・航海計画の検討・レスキューサービスなどを実践的に指導を行う。免許取得コースもあり、ステップアップや家族・友人の免許取得のサポートも行う。

## 4. ボートインストラクター&ガイドサービス

ヤマハ藤田のインストラクターが同乗して操船サポートやクルージングガイドなどを行



参加艇の一隻、トヨタボーナム28G-IIも出航。みなさん、準備も万全のご様子でいざ出航です!!



筆者が乗り込んだオフィシャル艇のプリゾ号(ヤマハPC-41)も出航です。



カメラ艇でもあるプリゾ号に接近し、カメラを向けるとこの笑顔とビースト音が本当に楽しそうです。



プリゾ号では藤田社長自らのほか、プリゾクラブメンバーの武市さんとの接舷レッスンも実行! 接舷はどうですか?



ヤマハPC-27を駆る中野さんと奥様の徳美さんがFBIからナイフ笑顔! あつ下ではオートクルーの美馬さんがカメラを……。



参加艇イチパンの概要。ヤマハSR-23はプリゾ号の引き波を切り競争ジャンプ! 滞水も見事に決まりました。



参加艇たちも競い合い的に競い合って走る。波も風も穏やかで走りやすい海況でホント良かったな。



う。またウェイクボードやトウイング、PWCなどのマリンスポーツの指導も行う。そして、ポートフィッシングに関するインストラクターによるレクチャー&ガイドを行う。

## 5. メンバーラウンジの利用

オークマリーナに併設されるクルージングカフェ。マリカのバー・ティー貸切、ラウンジ予約、コーヒー無料サービス、誕生日月のシャンパンボトルサービスなどが用意されている。

## 6. ホテルディスカウント

提携ホテルの利用価格をメンバーフィックスで利用できる。

といった具合。キメの細かいサービスがまさにテンコ盛りといったぐらいの充実内容で会員へのサービスを行っているのだ。

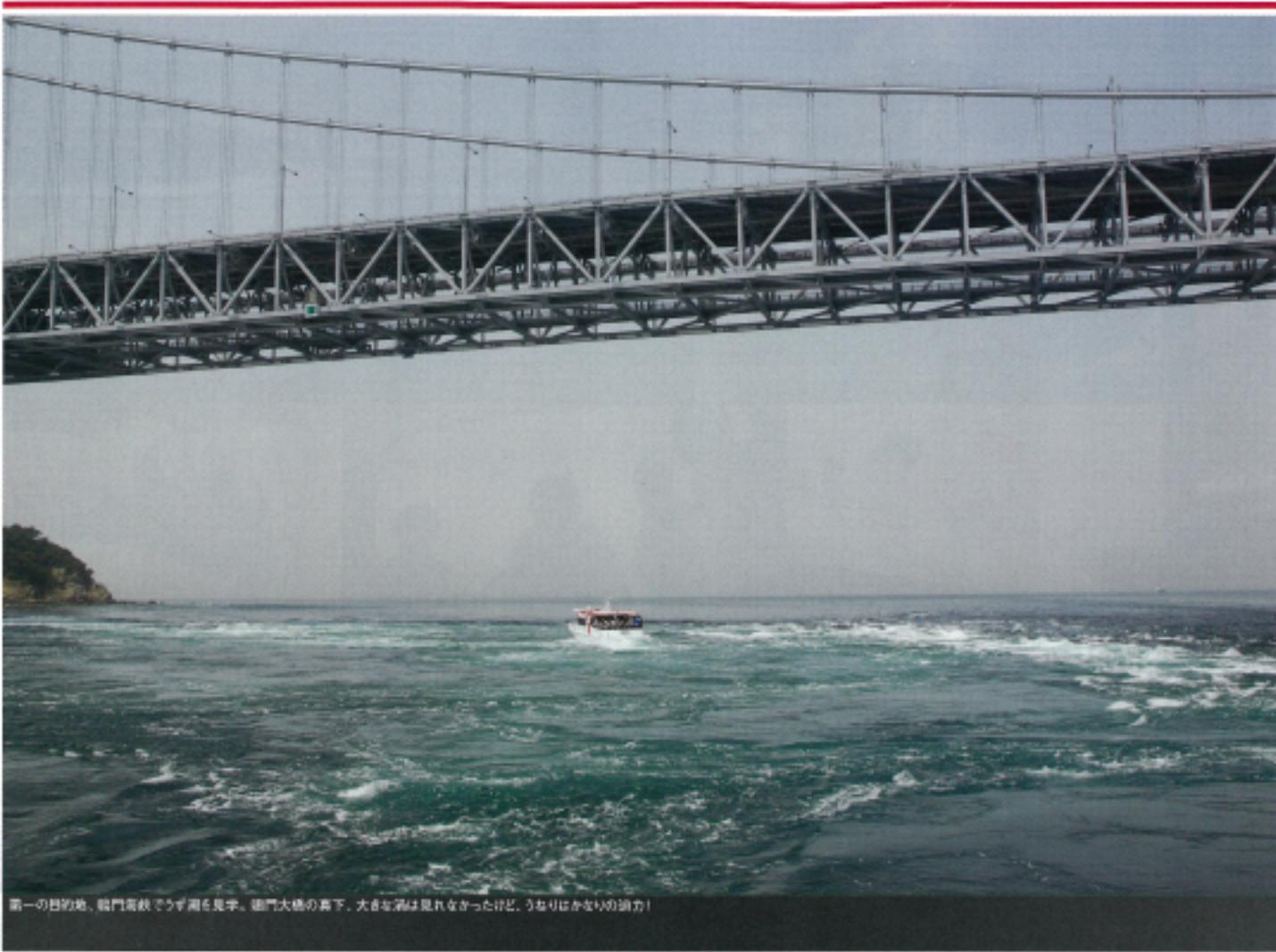
また、クルージングカフェ「マリカ」については女性目線でレイアウトされたオシャレな空間が好評だ。こだわりの美味しい食事

やスイーツ目当てに、一般のお客さんも多く訪れる。その中からいつかボートの世界に入ってくれる人が出てきてくれたら……そんな思いもこもっている。そして、マリカの存在はまた、女性も来やすい環境作りにも寄与している。これからボートの世界は女性の参加も重要な役割である。藤田さんは女性の参加も重要だと語る。藤田さんは、ジャズライブや音楽会、そしてダンスパーティーなどイベントも多く開催しており、ボートオーナーやプリゾ会員はもちろん、多くのお客様を取り込み楽しんでいるのだ。

さて、クルージングだが、そんなヤマハ藤田が提唱する「ボート・マリンの門戸を拡大・充実させるため」のイベントである。開催日はゴールデンウィークの後半、5月4・5日の一泊二日。クルージングプランは、オークマリーナを出た後に鳴門海峡に到達、うず潮を見学した後に淡路島のホテルアナガに寄港、一泊した後にオークマリーナに戻るという行程だ。鳴門海

峠や淡路島は同マリーナから約90分で行ける近距離にあり、今回はいろいろと内容を盛り込みます。ゆったりと全行程を楽しむのがコンセプトのようだ。参加者たちも10時にはオークマリーナに集合し、11時には各艇に乗り込み出航していった。

今回の参加艇は、オフィシャル艇がヤマハPC-41「プリゾ」号。筆者もこれに乗り込んだ。プリゾ号にはヤマハ藤田スタッフのほかに前述したプリゾレンタル＆バケーションクラブメンバーも同乗している。そのほか、オークマリーナを同様に出航したのはヤマハPC-27、トヨタボーナム28G-II、ヤマハSR-23の3艇。これらはすべてオークマリーナに艇を置くオーナー艇だ。あと、現地でもう一艇、プラチナムヨット48MYを駆るオーナーと合流予定。全参加艇は5艇となる。天気はややガスり気味だが晴れ、日差しが心地良く降り注ぐ中、一路鳴門海峡を目指してクルージ



第一の目的地、鳴門海峡でうず潮を見学。鳴門大橋の真下、大きな渦は見れなかったけど、うなりはかなりの迫力!



この日は天候といふこともあってかかなりの観光遊覧船が出ていて、どの船も多くのお客さんでいっぱいでした。

ングはスタートした。

風、波ともに穏やかで、クルージングには非常に適した海況の中、4艇は順調に進む。途中、プリゾメンバーの参加者、武市寛司さんと小川尚史さんが交代で操船レクチャーを受けながら進む。他の参加艇はというと、プリゾ号の引き波を突破したり、思い思いにコンボイ(船団)走行を楽しんでいる。今回は筆者以外にも記録用にスチール＆ムービーカメラマンが乗り込んでいるので、時折寄ってきてはシャッターチャンスを提供してくれる。ファインダ

ー越しに見える他艇の皆さんもいい笑顔でこちらに応えてくれたり、クルージングを中心から楽しんでいるんだなあって思った次第である。

出航してから約90分ぐらい経った頃、第一の目的地、鳴門海峡に到達した。鳴門大橋のちょうど真下にある。太平洋岸の紀伊水道と瀬戸内海の播磨灘がぶつかり合う海峡で、その流速は日本でも最大とのこと。この日は大きな渦は確認できなかった。ただ潮流がすごいことは確かで、41フィートのプリゾ号がグルグルと



第二の目的地、ホテル アナガの橋橋前でもう一隻の参加艇、プリゾム号48MYが我々を持っててくれた。

流れに巻かれる感じを体感できた。周囲にも大小さまざまな観光遊覧船が潮流に船を預けて「うず潮」を楽しんでいた。もっとも小型ボートでは近寄ると危ない状況もあるようで、海上保安庁の監視艇が航行艇をしっかりと監視していた。

鳴門海峡は本線航路でもあるのであまり長居は無用。我々も艇を次の目的地に向けて航行を開始した。といっても、本日の寄航地ホテル アナガは鳴門大橋にほど近い。10分もしないで専用の棧橋が見えてくる。ここで、もう一艇の参加艇と



積極に抱き合わせに停泊し、まずはみんなで記念撮影。とりあえずお疲れ様でした。お腹すきましたね?



船上バーベキューの準備もでき、まずはみんなでカントライ!湖面で乾いたのとにドリンクが楽しみになります……。



ゲストのMonDieu(モンデュ)のお二人。マカフェリギターとコントラバスの調べが心地良く響いていく……。



バウデッキに座り、まったりとした時間を過ごす。眼下には鶴門大橋が見え、とても気持ちの良い時間だった。

瀬戸内紀航



場所をホテルアナゴに移してフレンチディナーを楽しむ。参加者の小畠優香さんのご発声で本日三度目のカントリー!



MonDieu(モンデュ)のお二人と記念撮影を。彼らは6月19日(土)にカフェマリカで演奏予定のこと。行きたいなあ……。

も合流し、抱き合わせに瓶を並べる。桟橋に停泊した後はさっそくバーベキューパーティーを行う。ブリゾ号のアフテックがメイン会場となり、肉・魚介入り乱れたバーベキューに舌鼓を打つ。そんな中、なじみのミュージシャンから生演奏のサービスがなされる。マカフェリギターとコントラ

ラバスのコンビ演奏でユニット名は「MonDieu(モンデュ)」。ジブシー音楽とスタンダードジャズを融合したジブシー・ジャズ(スイング)が彼らのメインメニューだ。船上での演奏という「アウェー」にもかかわらず、二人の演奏はクルージングの疲れを心地良く癒してくれた。ジブシージャ



夜の部パート2は再び船上にて。カラオケなどでこれまた盛り上がりをみせつ、夜も更けていった……。



二日目の朝はこれまで晴天も風も、波とともに穏やか。平穡に召喚された筆者、またたりとした時間を過ごす……。



プラタナムヨット48MYオーナー小国さんご夫妻を中心にしてみんなと会話を楽しむ。とても良い時間のように感じた……。

## 非日常から日常に戻る時間が……



ヤマハ58ft-24オーナー八木さんご一行が一足先に出るということで横浜に到着。後はまたお会いしましょうね!



ホテル アナガ宿泊船が横浜に到着し、いよいよ帰路に着く。便ただしく出帆準備。忘れ物はないですよね?



筆者の乗るブリゾ号も出帆準備。ブリゾクラブメンバーの武市さんがフェンダーを外す。手際わざにスマサセン……。

ズは初めて聞いたが、繊細かつ抒情的なマカフェリギターの主旋律がけっこう染み入るなあって思った。イベントに音楽を絡めるのもヤマハ藤田ではよく行っており、MonDieuもクルージングカフェ マリカで演奏会を開催しているという。

気づくと日が傾いてきたのでバーベキュー・パーティーはお開き。ホテル宿泊予定者はチェックインし、スタッフは後片付けなど次なる準備などを行う。参加者を楽しませようという心遣い、頭が下がります! 参加者の皆さんも初参加の人は少ないみたいで気心知れた感じなのかな? もっとも、初参加でも心配はまったくなし! 藤田さんをはじめとするスタッフの皆さんはいい意味での「巻き込み型」の面々。細やかに気を配ってくれるので、身をゆだねているだけでいつの間にか参加者の皆さんともすっかり打ち解けられていた。

夜はホテル アナガにて美味しいフレン

チディナーを楽しむ。こちらでもMonDieuのお二人が心地良い演奏で楽しませてくれた。MonDieuはリードギターの伊藤淳介さんとコントラバスの長谷川光さんをメインメンバーとし、これにサポートアーティストが加わり3~5人で通常は演奏する。今回は2人だけのユニットだが、その分シンプルで心に響いたような気がした。夜の部も盛況のうちに演奏は終了。参加者の皆さんも楽しんでいた。

美味しいディナーを食べた後は、棧橋のブリゾ号にて「二次会」を開催。カラオケを楽しむもよし、愛艦でまたたりと時間を過ごすもよし。ゆっくりと時間は流れていく。ヤマハPC-27「ヴィーナス」で参加した中野博明さん・征美さんご夫妻に話をうかがってみた。中野さんが本格的にボートライフを楽しみ始めたのは2004年から。それ以前は折り畳み式のボートを所有していたが、あまり乗らなかったという。

最初のハードポート(ペイライナー2252)を乗り継いだ後、2年前に現在のPC-27を手に入れ現在に至る。ボートライフはクルージングがメインでたまに釣りにも出るそうだ。ヤマハ藤田のクルージングイベントにも積極的に参加し、「楽しいな」とは博明さんの感想。自分たちだけではなかなかいけないけど、いろいろとサポートをしてもらえるのもありがたいという。征美さんも「非日常が楽しめる」とボートライフを気に入っている様子。きっとこれからもヤマハ藤田のサポートを受けつつ、ボートライフを楽しんでいくことだろう。

インタビューをしている間に夜も更け、二次会もお開き。翌日に備えて寝ることに。筆者はカメラクルーのお二人とヤマハ藤田スタッフの美馬さんとブリゾ号にて宿泊。心地よい揺れがゆりかごのようで一気に爆睡……。

# Day 02



途中、ロケーションの良い場所でクルージング風景を撮影。先に出たハ木さん船も合流し、島々をバックにランデブー走行を楽しむ。

頬ア内紀航



プリゾ号では……武市さんと小川さんがハウツキでこんな風に走行を楽しむ……落もないでくださいねー?!



カメラクルーの海尾さんと松村さんが乗り込む中野さん船。それらの玉音シーンはプリゾ号の方からパチリ!



みんな並んでのコレボイ(船団)走行シーンです。こうしてみると、けっこう迫力あると思いません?

——日目。早朝に目覚めた筆者がまたたりとしていると、隣に舫うプラチナムヨット48MYオーナーの小國豊秀さんが愛犬クロウ君の散歩に起きてきた。今日も天候は穏やかな晴天。昨日見られたガスも見られず今日は視界がクリアである。ほどなく、スチールカメラ担当の海尾保徳さん、ムービーカメラ担当の松村和大さん、そして小國さんご一家に美馬さんも起きてきた。小國さんの奥様で、クル

ージングカフェ マリカのマネージャーでもある真城子さんが朝ごはんを作ってくれる。この日は12時に出航予定なので、ホテル宿泊組もゆっくりとホテルライフを満喫しているようだ。ベテランシーマンである小國さんからいろいろとご自身の経験された話をしみじみと聞く。時折、真城子さんが絶妙の「合いの手」を入れてくれるのがまた楽しくて、船中泊組もゆったりとした時間を楽しんだ。いい時間だった。

その後、プリゾメンバーの武市さん・小川さん一行が到着。彼らも加わり話の輪がさらに大きくなる。

武市さんはヤマハ藤田で免許を取った後、昨年からプリゾのメンバーとなった。昔からボートには憧れを抱き、35歳になった際に「今しかない」と免許を取得。ボートが欲しいのだが、種類もいろいろあり、また自身もどういう風にボート遊びをするかまだ絞りきれていなかったという。そこでプリゾに入会し、ボート操船やロープワーク、シーマンシップなどを教えてもらうとともに、自身のスタイルを摸索している最中だという。

「まずボートを持つことについても種類や値段、維持費などいろいろあるけど初めてだとそれが分からぬじやないですか。それに、海に出るのも不安がつきまとう。そんな部分も含めていろいろ教えてもらえるのでよかったです。イベントもいろんなオ



小国さん艇と「RIMA」等のショット。島並みをバックに、なんとか船になるシーンですね……。



プリゾクラブメンバーの渡哲さん(左)とその夫人、小川さん娘子(中央)、そして杉山さん(右)。豪華列席しました!



オーケマリーナの橋場下では何と漁獲物ができちゃう。小川さんの長女、早樹ちゃんが笑顔で見せてくれました!

一ーさんが参加するので交流もできるし刺激にもなりますね」と語ってくれた。

小川さんは武市さんの高校時代からの友人で、今ではお互いの家族も含めよく遊んでいるという。今回は長女の早穂ちゃんとともに参加してくれた。ボート免許も武市さんが「オレ行くけど行く?」と誘われ、すでにヤマハ藤田に免許の費用を取めてはいるそうだが、忙しくてまだ取れていなそうである。

「今まで2回一緒に行きましたね。カキを食べに行ったり釣りに行ったり。泳いですね。時間の流れが別世界といふか、普段の生活から離れた非日常を感じられて。今、下の子どもが生まれてまだ五ヶ月なんですけど、もう少ししたら家族みんなで楽しめるかなって思います。ホンマ、あとは免許取りに行くだけなんですね(笑)」

武市さんの仕事(歯科医さんです)の取

引先で付き合いのある杉山達彦さんは今回初参加。普段はダイビングを楽しむというが、ボートの世界は全然違いますねと感想を語ってくれた。

ゆったりした時間もそろそろおしまい。ヤマハSR-23の八木誠也さんご一行が先に出るとのことでお見送り。そしてホテル宿泊組も艇に戻り、慌ただしくホテルアナガを後にする。一路オーケマリーナを目指すのだが、今日も波・風とともに穏やか。ということでクルージング用カット撮影を行う。家島諸島の島々を背景にしつつ、船団を組んだり思い思いの走行を楽しむ。途中、先に出ていた八木さんの艇も合流し、5艇のランデブー走行をさらに楽しむ。プリゾ号に乗り込む武市さんと小川さんはあえてバウデッキに出て全開走行を体感してみたり、帰りも操船を楽しんだりとクルージングを満喫していた。

別所に艇を置く小国さん艇と別れ、オ

ークマリーナ組は帰路に就く。途中干溝の差がけっこうあるため、縦列になり慎重に艇を進め、14時過ぎ、無事にオーケマリーナに到着。一泊二日のクルージングは幕を閉じた。予定満載のクルージングプランもまた楽しいが、こういった「余裕を持った」クルージングもまた楽しい。時間の流れがよりゆっくりとしているので、リゾート感覚も強く感じられ、すっかり満喫してしまった。

ヤマハ藤田ではこのようなクルージングイベントを定期的に開催している。ワンデイクルーズを存分に楽しめる周辺海域はもちろん、ちょっと遠出をするロングクルージングまで、瀬戸内海のボートライフの魅力を知り尽くすスタッフがさまざまなサポートをしてくれるのがうれしい限りだ。弊誌では近いうちにまた、瀬戸内海クルーズのリポートをご紹介する予定だ。お楽しみに!